

中津川市の目指す姿と方針
よりよいひとたち
生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成
「知識と知恵」→「生きぬく力」

目指す人間像 「雨ニモマケズ」の「ワタシ」
学校の教育目標 自学・協同・鍛錬

めざす学校像
読書する学校
歌のある学校
花のある学校

＜求める学校の姿＞→誰もが笑顔で気持ちよく生活できる学校

生徒の成長を支える職員の「チームワーク・フットワーク・ネットワーク」

4つの重点

○安心・安全

- ・教育相談の充実
- ・温かい人間関係
- ・若葉・朝日の常存
- ・「命の教育」の推進

□教師が何をしたら、生徒や保護者の変容はどうであったか。（教職員ア）

○学ぶ意欲

- ・誰もが「わかる・できる・楽しい授業」
- ・学び合いの実践
- ・ICT活用
- ・家庭学習の充実

□授業が「わかる・できる・楽しい」と感じる生徒の割合（学習ア）

○自治力

- ・生徒が当事者意識をもった動き
- ・リーダーの語り
- ・生徒のアイディア
- ・行事＝日常

□自治的な生徒会活動の見届け（生徒会ア）

○連携

- ・地域との連携
- ・学校運営協議会
- ・地域行事への参加
- ・PTA活動
- ・関係機関との連携

□地域と繋がる活動の頻度と実績（何をどれだけやったか）

□…学校経営の指標 5つのstageで見届け

基盤となる学校の構え

◎小中一緒に関わりの力を育成する（不登校、不応、仲間との不和への対策）

- ・あけぼのタイムの実践（Simpleプログラム）
- ・縦割りでのあらゆる活動の実践

○変化に対応できる柔軟さと困難に負けないたくましい生徒を育てる→雨ニモマケズのワタシ

- ・「命と健康」を判断基準に、より正しく判断し行動する力を付ける
- ・生徒に考えさせ、生徒のアイディアで活動をつくり出す

○生徒のSOSに対しては、その日のうちに100%対応する

- ・「欠席は生徒のSOS」「初動を速く」「見届けを確実に」「一番遠くにいる生徒を大切に」
- ・対応は個人ではなく組織で（報告・連絡・相談の習慣化、生教特委員会の活用、情報共有）

○学年の色をつくり出す

- ・学年目標・・・「規律と勢いの1年」「自律と自信の2年」「自立と誇りの3年」
- ・学年の特性を見出し、活動を起こし、認め、励まし、広める
- ・総合、道徳、学活を学年で計画的に推し進める

○研究推進委員会の牽引で、全職員が授業の向上をめざす

- ・「学び合い」を軸にした授業づくり

○家庭、地域と一緒に同じ方向から生徒の成長を支える曙学園

- ・学校運営協議会を軌道に乗せる
- ・チャンス的大事に地域とつながる

○「働き方改革」は、全体の奉仕者として

- ・どうすることが働き方改革か？そのつながりこそが大切！

＜生徒＞

- 明るく素直でエネルギーがある生徒集団である。プラスの行動で溢れさせ、1年生も同じ方向に向かうことで福中を創るひとりである意識の醸成を目指す。
- ・人間関係作りに辛さを感じる生徒への支援を大切に。

＜保護者・地域＞

- 保護者は概ね協力的である。
- ・学校と保護者が連絡を取り合い、思いの共有を大切にする。
- 学校運営協議会員は温かい視線で学校を見守ってくださる。
- ・PTA行事などの盛り上がりや地域とのつながりを大切に。

＜教師＞

- 一声かければ全員ですぐに動くことができる。何事にも一生涯懸命、迅速な対応ができる
- ・超過勤務の改善に向け、既存活動の吟味を行うとともに、働き方のタイムマネジメントを行う。

実態